

『宮崎市郡医師会病院における心エコー検査の実情と課題』

◎田永 哲士¹⁾

公益社団法人 宮崎市郡医師会病院¹⁾

当院は心臓病に対して高度専門医療を提供することを目的とした心臓病センターを設置しており、病院情報局の心筋梗塞治療ランキング全国8位、九州では2位の治療成績を誇り、年間約300件の心筋梗塞患者を受け入れています。

現在、心臓超音波検査士は14名（男性12名、女性2名）で、渡邊望先生のご指導の下、年間約15000件の心血管エコー検査を行っています。また、24時間365日、超音波検査士が待機しているという特徴があり、全ての救急患者の緊急時心エコー検査を行なっています。救急外来（ER）での緊急時心エコー検査は年間約700件、記録は必ずフルスタディを心がけており、リアルタイム3D画像も記録するようにしています。

当院は来年8月に新築移転し、心血管エコー室も現在の6室から10室と拡大するため、新たな心臓超音波検査士の養成が喫緊の課題となっており、特に女性検査士の育成が求められています。対策として、昨年より2名の女性技師の心エコー検査の臨床教育を開始し、勤務年数1年～4年の5名の技師は新人教育のカリキュラムを作成し、定期的に講義とハンズオンを行っています。

当院には心臓超音波専門医師として、渡邊望先生と西野峻先生が生理検査室に常駐されており、毎日の技師のエコーレポートのチェックをされ、的確なアドバイスと指導を頂いています。毎日午後4時半からその日の重要な症例のリーディングを30分間程度行い、技師と循環器内科医師が参加して、心エコー検査の知識や技術の向上に取り組んでいます。

また、毎週水曜日と金曜日の朝7時40分より、循環器内科・心臓血管外科医師と技師との合同心エコーカンファレンスを行い、情報の共有を心掛けています。

地域での取り組みとしては、毎月1回当院において心エコー勉強会を開催し、市内の他施設の医師や技師も多数参加しており、貴重な意見交換の場となっています。

また、日頃心エコー検査に携わっていない、開業医や技師を対象とした勉強会を年2回『実地医家のための心エコー』と題して、渡邊望先生が講義と実技指導を行っています。

心エコー検査に携わる技師として、当院の環境は非常に恵まれています。各自のスキルアップを図り、自覚と責任を持って、地域医療に貢献できればと思っています。

（連絡先 電話番号 0985-24-9119 内線 PHS 1528）